

2017年度 第4回 ボランティア学習協会東京フォーラム

～きみは卒業の後に何をするの?～

2月17日(土) 14時～17時

オリンピック記念青少年総合センター

1. 若者とボランティア活動についてプレゼンテーション(興梠先生)
2. ティーミーティング(大学生)～アイスブレイクゲーム～
3. 学生・OBによる基調提案
4. グループディスカッション
5. グループ発表



【第4回フォーラムの概要】

1. 若者とボランティア活動について3つの疑問を提起
 - ・若者はボランティアに何を求めるか
 - ・自由で創造的な学びの壁は何か
 - ・私たちは今何をなすべきか

ボランティアによる学びとは、

ボランティア体験⇒「誰かに必要とされる感動」⇒「自由な発想で創造力を発揮」⇒
「未知の世界・人との出会い」⇒「お金やモノに替えられない価値に出会う」⇒
「どんな人間になりたいかが見えてくる」⇒新たな体験 というサイクル

就労後の実態

- ・企業のボランティア制度
- ・プロボノ等の活動
- ・企業の NPO の提携（社会的インバウンド投資）などが進んできてはいるが…。

ボランティアによる学びを経て、「卒業後」に社会の中で、何ができるのか、活動するのか、若者たちの現状と課題を共有し私たちができることを、世代を超えて話し合う

2. 昭和女子大の学生さんによるアイスブレイクタイム

若者たちとかなり大人の指導者が混ざってお菓子を食べたり、いろんな世代が混ざった 2 チームに分かれアイスブレイクゲームで対戦しました。

3. 5 人の若者と若手指導者) による基調提案

①大学 4 年生

- ・4 月より小学校の先生になるが、子どもたちとボランティアに参加する場面をどうつくっていけばいいのか。
- ・就職後もボランティアに関わる人たち、仲間たちとのつながりを持ちたい。
- ・学校支援のボランティアをどう受け入れるのか。

②大学 4 年

- ・自分自身は大学で初めてボランティアに出会い、大きな影響を受けた。
- ・「世田谷ボランティアミーティング」で、中高生とも交流しているが、中高生も社会人も忙しく参加頻度が低い。社会人の参加を促す方法や活動の魅力をどう工夫できるのか。

③大学 4 年

- ・ワークキャンプで世界の中で自分たちと全く違う生活を知った。ボランティアの魅力でもある出会える人の幅をこれからも広げていきたい
- ・今までの体験は医療ソーシャルワーカーとしての職業にも役立てることができるはず。
- ・社会人になり、組織の中のひとりとして、どう自分らしくいられるか
また、ボランティアができるのか、やれる時にやれば、とは思いますがどうできるのかが不安。

④OB (NPO 法人での勤務)

- ・興味のある「子ども」に関わる仕事について、時間的にも余裕がありボランティアにも参加でき、興味もあることを学びつつ活動を広げる機会もある。
- ・地縁のつながりの中で子どもたちが育つ、子どもを地域で育む、という視点を仕事に活かしていきたい。
- ・NPO やボランティア発信で行政を変えることができるのではないかと、思う。

⑤OB（信用金庫の中央機関に勤務）

- ・震災後にできたボランティア休暇制度が、なくなっていた。復活してほしい。
- ・仕事がやりたいことと違う、ということで転職する人も多いが、その会社にあえてとどまり、会社の中で変化を促すという取り組み方もあるのではないかと思う。
- ・社会人としての思いを語り合いたい、そのような場がほしい。

⑥若手指導者（大学でボランティアセンターを立ち上げた）

- ・大学で体験した活動を契機に学校内でボランティアを広めるためのボランティアセンターの立ち上げに関わる。現在も大学ボランティアセンターのあり方や役割について研究している。
- ・卒業後、1年間ボランティア(JIVAの365)に参加、その後もNPOの仕事を経て現職。仕事としてNPOに関わるという生き方もある。仕事をしながらボランティア学習に関わることもできている。

4. グループディスカッション／5. グループ発表



私たちは「卒業後」何をするのか、何ができるのか

大人2名～3名、若者3名～4名で3つのグループに分かれて、各グループで話し合いをしました。

大学卒業後20代のボランティア人口が激減することについて、若者たちは「卒業後」に漠然とした不安を持っている。卒業後ボランティアとの関わりを持ち続ける進路としては、NPOを仕事にする道や仕事そのものを活かしたボランティア活動、または仕事をしながらできる時に、できることをやる、等さまざまなかかわり方がある。また、

気持ちやつながりを持ち続けることで、いつの日か再開できるボランティア活動や、新しい視点や新しいニーズに気づいて始めるボランティア活動など、学生時代のボランティアによる学びが、長い人生の中で活かされたりつながったりするチャンスがあることを語り合いました。

各グループ、話し合いの時間が足りないくらいでしたが、世代を超えた話し合いは案外それぞれに発見があり、それぞれの思いを自由に語り合う場、「ボラトーク」をやりたい！！と発表したグループもありました。

学生たちの学びが、「卒業」後のさまざまな経験の中で進化していく、ボランティアで創造的な活動をすることが仕事にも活かされるようなそんなワーク&ライフが必要だと思います。ライフの中にボランティアが当たり前になる、ことも大切だと思いました。



(事務局 大坪直子)